

シンポジウム&フォーラム開催

☆☆☆ シンポジウム

「美しい国土づくりの実践にあたって」 ☆☆☆

去る平成16年2月27日(金)、宮城県仙台市において東北地方整備局と共催で「美しい国土づくりの実践にあたってー住民・専門家・行政の役割ー」と題したシンポジウムを開催した。

基本課題の一つである「美しい国土の創造」の情報発信活動の一貫としては「美しい国土デザインに関するヴィジョンー後世に伝えるべき美しい国土とは何かー」(平成14年9月)、「公共事業におけるデザイン・システムのあり方」(平成15年5月)に続く3回目、地方整備局との共催としては初めてのシンポジウムである。民間企業、大学、関係法人、官公庁等から約280名の参加を得て盛況であった。今回は、「美しい国づくり政策大綱」の発表を受け、美しい国づくりの実践の段階において、住民、専門家、行政それぞれにどのような役割と協力が望まれるか、有識者を交え議論をすることとしたものである。以下、シンポジウムの概要について紹介する。



国総研浜口達男所長、東北地方整備局馬場直俊局長の開催挨拶の後、青山俊樹前国土交通事務次官より「美しい国づくり」に係る背景や思いについて基調講演して頂いた。「国土の美しさ」と「国民の心の有り様」は結びついているのではないかと等々貴重なご指摘を頂いた。

次に、「美しい国づくり政策大綱と今後の方向」と題して、国土交通省総合政策局政策課越智健吾課長補佐からご報告を頂いた。さらに、「東北地方整備局における美しい国土づくりの実践の報告」として「美しい国づくり」を進めるにあた

っての計画デザイン・システムのタイプ毎に、それぞれの事業に関わった発注者である国とデザイナー・有識者からご報告を頂いた。「景観に配慮したプロポーザル方式」を採用した角館バイパスの事例について秋田河川国道事務所伊藤友良副所長、株式会社ドーコン畑山義人氏より、「景観委員会方式」を採用した旧北上川分流施設の事例について北上川下流河川事務所西村徹工務第二課長、日本大学知野泰明講師より、「美しい国土づくりアドバイザー制度」を採用した仙台東部道路の事例について仙台河川国道事務所大山英朗副所長、東北大学大学院平野勝也講師より、それぞれご報告頂き、最後に、国総研における「美しい国づくり」の取り組み状況と今後の課題について「美しい国土の創造」プロジェクト・チームの上島空港ターミナル研究室長が報告した。

パネルディスカッションは「美しい国土づくりの実践に向けてー住民・専門家・行政の役割ー」と題して、篠原修東京大学教授の司会のもとフリー・アナウンサー渡辺祥子氏、小野寺康都市設計事務所代小野寺康氏、元三春町長伊藤寛氏、東北地方整備局秋田工事事務所副所長伊藤友良氏の各パネリストに、青山俊樹前国土交通事務次官をコメンテーターとしてお迎えし、美しい国づくりの実践の段階において、住民、専門家、行政それぞれにどのような役割と協力が望まれるか議論を進めた。デザインについては行政も住民も「目利き」たるべく訓練する必要があること、住民参加は住民に判断を任せるものではなく住民、専門家、行政が共同作業でデザインすることが重要であること、家は個人のものだが見た目は公共のものという意識が必要であること等々貴重なご意見、ご指摘があった。シンポジウムで頂いたこれら貴重な意見をもとに、今後の調査研究活動に活用することとしている。



(空港ターミナル研究室)